研究課題　観世音寺公験案の集成と研究

研究経費　六四六、九六〇円（前年度より繰越し分を含む）

研究組織

　研究代表者　　　森 哲也(九州大学大学院人文科学研究院・専門研究員)

　所内共同研究者　稲田奈津子・遠藤基郎（所内担当者）・山口英男

　所外共同研究者　重松敏彦（太宰府市公文書館・会計年度任用職員）・三輪眞嗣（神奈川県立金沢文庫・学芸員）

研究の概要

（１）課題の概要

　保安元（1120）年、筑紫観世音寺は東大寺末寺化に伴い、８世紀代以来の伝来文書について公験案を作成して進上した。それらは東大寺図書館を始め、国立公文書館（内閣文庫）等、寺外の各所にも分蔵され、確認できる公験案は24点を数える（１点は焼失、２点は正文）。本研究では、これら公験案24点を集成・翻刻して広く学界の共有財産化を図るとともに、地方寺院における文書保管、資財管理の実態解明、寺領経営の再検討等、公験案としての分析を行おうとするものである。2019年度は、公験案すべての釈文案を完成し、伝来過程等に関しても整理を行うことができた。2020年度は、昨年度の成果を踏まえ、共同研究者による検討を経て釈文を確定するとともに、公験案に関する分析を行って本研究の完成を図る。

（２）研究の成果

　★軽微な修正あり、連絡待ち★